

令和元・2年度始良・伊佐地区研究協力校

「学力向上（国語科）」 研究公開

始良市立加治木小学校

1 研究主題

主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり

～国語科「読むこと」の領域の授業実践を通して～

2 研究発表

始良市立加治木小学校では、令和元年度から2年間にわたり、地区研究協力校として「主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり」を研究主題に、研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、主体的な学びを実現するための5つのポイントを示し、単元のゴールを子供の姿で具体的にイメージした上で単元構成を練ることの大切さについて述べられました。

また、対話的な学びを実現するために、子供同士をつなぐ教師の具体的な言葉かけを観点ごとに整理し、13種類の具体的な言葉かけとともに、実践例が示されました。

新学習指導要領となり、これから求められる授業の在り方やその方策についての示唆を与えてくれるものでした。

なお、研究の内容は以下のとおりです。



【研究発表の様子】

【仮説1】「主体的な学び」をする子供の姿が見られる授業を目指して

「子供から出た問い」の連続性を重視し、子供も自身が単元を通して「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を認識できる授業の構成や展開の工夫をすることができれば、主体的に学ぶ子供の姿が見られる授業になるのではないか。（身に付ける力の明確化、単元構成の工夫、授業展開の工夫）

【仮説2】「対話的な学び」をする子供の姿が見られる授業を目指して

子供同士をつなぐための手立てを講じたり、子供の思考を可視化できる手立てを講じたりすることができれば、対話的に学ぶ子供の姿が見られる授業になるのではないか。（教師の具体的な言葉かけ、思考の可視化）

3 公開授業

始良市立加治木小学校では、4年生と5年生の2学年の授業が公開されました。

第4学年では、後藤義史教諭が「ごんぎつね」を教材に授業を行いました。登場人物であるごんと兵十の心情の変化を記したワークシートを使いながら、ごんと兵十の気持ちの変化について、叙述を基にした児童同士の意見交流が活発に行われました。

第5学年では、中野嘉彦教諭が「大造じいさんとガン」を教材に授業を行いました。児童は、それぞれが選んだ物語の魅力を表す一文を黒板に掲示し、それらを基に、選んだ理由について意見交流を行いました。対話的な活動を通して、深く考える姿が印象的でした。

どちらの授業においても、単元を貫く目標が設定され、その目標を達成することを意識した授業構成となっていました。

また、対話活動を活発に行わせるための『可視化』を意識した授業が展開され、今後の授業の在り方についての大きな示唆を与えてくれる授業でした。



【第4学年における授業の様子】



【第6学年における授業の様子】

4 分科会

分科会では、児童の姿を基にした授業研究が行われました。

子供同士をつなぐ教師の具体的な言葉かけや可視化についての意見交流がなされました。

参加者からは、「教師の言葉かけにより、子供たちは叙述に基づいて考え、深めることができていた。」や「一文を掲示させることで、自分の考えを友達に伝えたいという気持ちが高まり、積極的に尋ね合う姿が見られたのではないか。」といった意見が出されました。



【分科会の様子】